

持続可能な社会の実現に向けて

省エネルギー活動、地球温暖化防止活動、廃棄物削減活動、化学物質削減活動について、いずれも事業形態の変化、事業量の拡大の影響により、活動の成果が見え難くなっています。今後は、原単位の改善なども重要な指標として活動の効果を分析し、効率的な施策を推進していきます。

地球温暖化対策

低炭素社会の実現を目指して「エネルギーを無駄なく利用する製品とものづくりで、グローバルに地球温暖化防止に貢献」します。

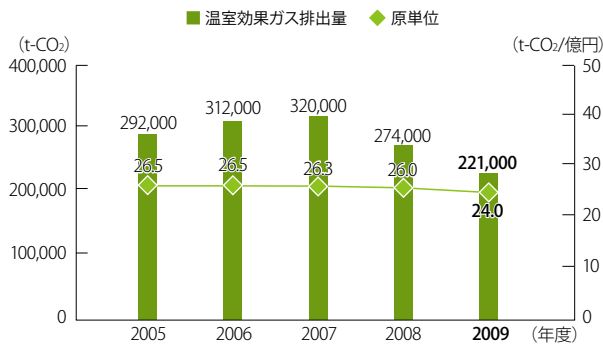
① 2020年の温室効果ガスの排出量を、国の目標に合わせて削減している。

自らの生産活動から発生する温室効果ガスについては、総量削減を基本としますが、生産性向上を目指した改善を推進するために原単位目標を定め、二つの指標を用いて削減活動を実行します。

2008～2012年度は、2007年度を基準とした原単位¹⁾の10%削減を目標として活動しています。また、2020年度を想定した目標は、現在、検討中ですが日本政府の目標レベルと同等の基準を設定する予定です。

¹⁾ CO₂排出量を売上高で除した値

● 温室効果ガス排出量 (CO₂換算)

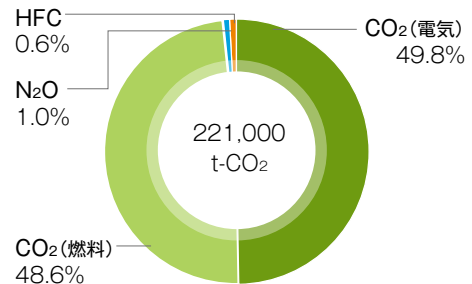


・電力換算係数は、電力事業者毎の係数を採用しています。(2009年度は2008年度の係数を利用して計算)
 ・船舶の海上試運転に伴うCO₂排出量は、2009年度より生産拠点のCO₂排出とは別に管理することとしました。

排出実績

- 2009年度の温室効果ガス排出量は、基準年である2007年度と比較して排出量、原単位とも減少しましたが、目標としている原単位10%削減に対してはさらなる削減が必要な状況です。
- 2009年度の排出量が大幅に減少している点については、省エネ設備投資と運用改善によるCO₂削減効果が表れていることと併せて、会社分割を行ったことによる集計範囲の変更や、生産拠点のCO₂排出源に対する見直しを行ったことも影響しています。

● 温室効果ガス排出量構成内訳 (2009年度)



② エネルギーを有効に利用する製品・サービスを顧客に提供し、地球規模で温室効果ガスの排出を削減している。

CO₂削減に資する輸送システムやエネルギー環境製品を製造するメーカーとして、製品・サービスの提供による地球温暖化対策への貢献を追求します。

トピック

設備投資や生産性向上活動などによる自らのCO₂削減を徹底した上で、さらに目標に不足する量は、当社の製品・技術による削減から生じるクレジット等の活用を検討します。具体的には、国内クレジット制度へ共同削減事業者として参加し、当社グループの製品・技術が関与する国内クレジットの獲得を目指しています。

③ 生産過程や物流過程における省エネルギーを推進し、温室効果ガスの排出削減を行っている。

エネルギーの使用の合理化に関する法律などの法令遵守を徹底するとともに、製品ライフサイクル全体で温室効果ガスの削減を目指します。

以上のように自らの生産活動から発生する温室効果ガスの削減と製品・サービスによる削減、その他、当社の製品・技術から生じるCO₂クレジットの活用を組み合わせた地球温暖化対策を実現していきます。

廃棄物削減活動

廃棄物削減の取り組みとして、廃油の再利用・再生利用などの推進ならびに工場から排出される廃棄物を単純焼却や埋立てをせずにリサイクル率100%を目指すゼロエミッション活動を継続的に推進しています。工場の特性に応じた活動とともに、各工場に共通する次のような項目については、グループ全体で取り組んでいます。

全工場共通の取り組み

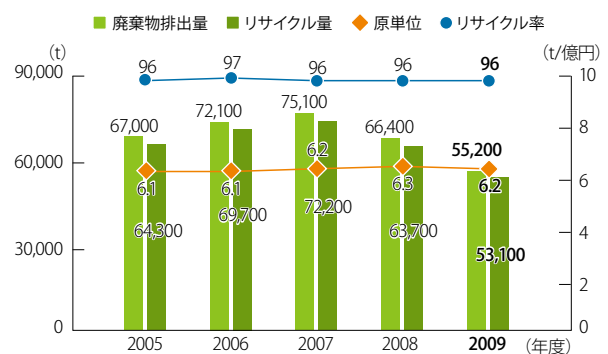
- 廃棄物の排出量上位3物質(金属くず・廃油・木くず等)の削減活動
- 省資源、3Rの推進
- ゼロエミッションの維持向上
- 電子マニフェスト導入の推進

こうした活動の結果、2009年度のリサイクル率は2008年度と同じ96%になりました。廃棄物の総排出量については、経済情勢の変化による生産量の減少等により、昨年度実

績より約17%減の約55,200tとなりました。

また、売上高原単位指標においては、2009年度6.2ポイントと2008年度から0.1ポイント改善されました。2002年度の売上高原単位を基準年として、2020年度20%の改善を目標に活動しています。

● 廃棄物排出量とリサイクル率



化学物質削減活動

化学物質の削減活動の対象として、主要VOC、ジクロロメタン、有害重金属について事業部門ごとに目標を設定し、削減に取り組んでいます。ほぼすべての事業部門で削減活動の対象となっている、主要VOC、六価クロム、鉛における取り組みの状況は以下の通りです。

【主要VOC】

主要VOCについては、塗装工程からのVOCの削減が重要ですが、十分な性能の低VOC塗料が少ないことや、ユーザーによる塗料の指定や国際規格による塗装基準の変更などがあり、削減が困難な状況にあります。2009年度は塗膜厚管理の徹底や水系・ハインリッド塗料の適用拡大などに取り組みましたが、排出量は前年とほぼ同じでした。

【六価クロム】

六価クロムについては、塗料に対して、クロムフリー塗料の導入に取り組み、使用廃止を達成・予定できた部門もあります。しかし、特殊な表面処理に使用しているものも多く、六価クロムを使用しない技術の導入に取り組み、順次切り替えを進めていますが、取扱量は前年よりも増加しました。

【鉛】

鉛については、塗料に含まれているものが多く、鉛フリー塗料への切り替えを中心に削減が進み、使用廃止を達成・予定できた部門もあり、取扱量は前年よりも減少しました。

2010年度からの第7次計画においては、「2020年度までに管理対象の化学物質について、最少化(重金属は原則ゼロ化)を目指す」という基本方針の下で、さらに削減活動を推進します。

● 削減対象化学物質の排出・取扱量 (t/年)

項目		2009年度の排出量(取扱量)	2008年度比増減
主要VOC	トルエン	305	-7.0%
	キシレン	719	-5.4%
	エチルベンゼン	324	+7.6%
	合計	1,348	-3.0%
ジクロロメタン		51	+2.0%
有害重金属	六価クロム	22	+10.0%
	鉛	2.4	-33.3%
	カドミウム	0.12	0%

・主要VOCおよびジクロロメタンは排出量、有害重金属は取扱量を表示。
 ・カドミウムについては、取扱量が500kg未満であるため、PRTR法による集計には含まれていません。
 PRTR法で定められた化学物質の排出・移動量のデータについては「全社環境負荷データ(2009年度)」(21ページ)をご参照ください。